

令和4年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成					
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。					
本年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的好奇心を高める学びの場や地域での多様な体験を通して、主体的に学び、社会に対応できる確かな学力を身に付けた児童を育てる。 ○ 全教育活動の中で、生命尊重や思いやりの心、郷土を愛する心を育てる。 ○ 基本的な生活習慣の定着と自分の命は自分で守ることのできる態度を育てる。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A A	A
	②	授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。(一斉教授型の授業スタイルからの脱却)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	C
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B C	C
	(成果と課題)					
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染対策に努めながら、ペアやグループによる対話的な活動によって、主体的な学びに向かっている。 ○ 一人一台端末の効果的に利用する場面が増え、教職員は常に情報交換を行いながら、研究を進めている。 ○ ねらいとまとめをきちんと連動させた授業を展開しているが、児童の学力の向上には至っていない。 ○ ふるさと学習を進めようと昨年度から取り組んではいるものの、実践の回数も少なく、特に低学年への意識付けが低い。 					
	(改善策等)					
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対話的な活動を積極的に実践するとともに、その効果を検証し、児童の評価にもつなげていきたい。そして市教研への取組、授業研究を中心として、より効果的な対話的な活動を模索していきたい。 ○ 日を追うごとに、一人一台端末の利用頻度は上がっているが、教師の個人差が大きい部分もある。情報を共有するとともに、個人的な研修も進めていきたい。また、ICT支援員を計画的に活用し、より効果を上げたい。 ○ ねらいとまとめを児童の言葉で考えさせることを習慣化し、児童の主体性を伸ばしていきたい。 ○ ESDカレンダーの作成及び地域の人材等と関わる活動の年計への明記が教科主任から提案された。ふるさと学習を進めるために、まず校区でどのようなことができるのかを明確にしたい。学校運営協議会にも積極的に働き掛けるとともに、地域コーディネーターを積極的に活用していきたい。 					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。	いじめの未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	B	B
				・児童生徒の姿	B	
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 規範意識を高めるために、常に指導を重ねているが、児童の変容が見られないため評価が低いと考えられる。 ○ 普段から学級担任を中心として、電話連絡や家庭訪問を通じて、児童とその保護者に対して丁寧に対応できている。また、大きな問題にはケース会議やワークショップを通して共通理解・共通実践を図っている。 ○ 不登校やいじめの未然防止やその解決に向けて、チーム和霊で地道に取り組むことができている。 					
	<p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期から挨拶について全校で実践しており、少しずつ変容が見られる。新たな取組を考え、意識統一のもと継続した実践を行うことで、より高い規範意識を育てたい。 ○ 和霊の和にかけて、「プラスの言葉」の言葉掛けを実践している。いろんな場面で称揚されたり認められたりすることで、自己肯定感や自己有用感を向上させたい。 ○ 児童間のトラブルが多く、それが登校への意欲を低下させている場面が多くある。些細な問題でも、素早く報告を行い、担任一人に任せることなく組織的に対応する。 ○ 短時間でのケース会議を実施することで、すばやく対応を協議するとともに、担任が一人で抱え込むことがないようにする。必要に応じ、SSS・SC・民生児童委員等の協力を得て、実効性のある組織的な対応を行う。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
			・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年部等の組織は円滑に活動できており、教職員間の信頼関係も築くことができている。楽しい職場であり、明るい職場である。ほとんどの教職員は、やりがいを感じる職場でもある。 ○ 丁寧な指導、丁寧な対応を心掛けて勤務している教職員が多く、どうしても勤務時間が長くなっている。 ○ 業務改善についてワークショップを実践し、改善点を洗い出した。少しずつではあるが、業務がスマートになっている。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務改善を進めているが、どうしても時期的に勤務時間が長くなる場面が多くある。単純に時間を短縮することを目標とするだけでなく、時間対効果を考える視点を持ち、更なる勤務時間短縮を目指したい。 ○ 1学期に実施したワークショップのアイデアを、今後も計画的に進め、その成果を検証しつつ実践を積み重ねていきたい。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	B	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染拡大のため、学校運営協議会活動にも多くの制限があったが、徐々に活動が進んでいる。 ○ 積極的にホームページを更新したり、和霊小Commで保護者への連絡を頻繁に行ったりしていることで、保護者の学校への関心と信頼が高まっている。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページに対して保護者や地域の関心が高いので、今後は多くの教職員から情報発信を進めるとともに、様々な啓発活動にもつなげていきたい。 ○ 機会をとらえて児童の様子を見ていただくことで、学校運営協議会の委員を通じて、児童と地域とのつながりを密にしていきたい。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満